

下松市立久保小学校児童が間伐作業・竹箸づくりを体験

令和4年11月2日（水）、下松市立久保小学校の学校林において、4年生44名が間伐作業を体験しました。

これは、林業研究グループ「下松市林業研究会」（近道千佐子会長、会員数20名）が、次世代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや、それを支える林業の役割などについて理解を深めてもらうために「森林体験学習」として行ったものです。

学校から徒歩で約20分の所にある学校林に着いた児童は、下松市林業研究会の会員がチェーンソーでヒノキを伐る様子を見学した後、みんなでロープを引っ張って間伐木を倒す手伝いをしました。

伐倒したヒノキは児童がノコギリを使って自分の好きな大きさに輪切りにして持ち帰りました。

児童からは、「ノコギリで木を切ると、固くて大変だったけど最後まで一人で切れて嬉しかった。」「ヒノキは良い香りがするのでお風呂に入れて家族と楽しみたい」「木の皮を剥くと水分が多く出てくることが分かった」など、色々な感想を聞くことができました。

午後からは、下松市林業研究会の会員が伐採した竹を活用して竹箸づくり体験を体育館で行いました。この体験では「ゆめ花マルシェ(10/9:山口市)」の巨大モウソウチクのコンクールで金賞を受賞した竹を利用しました。

刃物を使用する作業では怪我を心配しましたが、指導者の指示どおりに上手に刃物を使い竹箸をつくりました。児童からは「給食で自分が作った竹箸を使って食べるのが楽しみ」「山の厄介者の竹を自分達が使うことで少しでも山がきれいになれば嬉しい」などの感想が聞かれ、有意義な時間を過ごすことができました。



ロープを引っ張り伐倒の手伝い



竹箸づくり